

神のもの

政治と宗教

キリスト教がローマ帝国の中で、広がっていくにつれて、政治と宗教が結びつき、物質的な世界は皇帝が、精神的な世界は教会が支配するようになりました。その後の教会の歴史の中で、政治との結びつきがあまりにも強くなりすぎたために、教会は政治について口を出さないようになり、政治と宗教が分けられていきました。しかし、その結果、教会は

現代社会の問題に対して何も発言できなくなり、信仰は生活とかけはなれたものとなってしまいました。

次の空白に宗教の役割と政治の役割について思うものを書いて下さい。

宗教の役割

政治の役割

社会とともに歩む教会

現実の問題に対して、教会も、はっきりした判断を

下すべきだという考えが強くなり、1962年〜1

965年に、第二バチカン公会議が開かれました。

京都教区でも、1981年に教区ビジョンが作ら

れ、『私たちは、この社会のあり方に迎合するのでは

なく、社会の中、人々の中にある福音的なものを、キ

リストのメッセージ、みことばの種として受け入れ、

それに努力すること、その反面、社会の中にある

非人間的なもの、福音の精神に反するものに対しては、

はっきり声をあげ、賢明にこれを正すことが必要であ
ると言えるでしょう』と言われています。

宗教は政治と結びついても、無関心であつても

いけない、常に、福音的な判断をもち続けなければい
けないのです。

